



2015～16年度
国際ロータリー会長
K. R. ラビンドラン

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16年度
新潟ロータリークラブ会長
竹石 松次

新潟 RC7月第 4例会 (2015.7.28) No.3097

(1) ロータリーソング「それでこそロータリー」 斉唱

(2) 竹石 松次 会長挨拶

大矢 紀

昭和十一年(1936)～

画家一家の長男として、長岡市与板(旧・三島郡与板町)で誕生した。父・黄鶴(こうかく)、母・芳枝の長男として生まれる。黄鶴(本名・三郎)は、日本画家で、花鳥画を得意とし院展を中心に活躍していたが、五十五歳で亡くなったため、長男の大矢は、兄弟七人を養う責任者となった。与板には五歳まで過ごし、一家で上京、小学生の時、疎開で再び三年間故郷に戻る。与板の黒川でナマズやウナギを捕り、食糧難の時代にお腹を満たした他、火焰型土器のかげらを収集、将来は考古学者を目指した程だった。高校二年生の昭和二十八年(1953)、東京・銀座の松坂屋で開かれた院展の「三羽がらす」小林古径、安田鞠彦、前田青邨の三人展を鑑賞、前田の「洞窟の頼朝」「ローマ使節」の絵に強い衝撃を受けた。

洞窟の中で爛々と輝く武将達、一際目立つ頼朝の絵を見て、その重量感ある日本画の素晴らしさを体感し、考古学者の世界から画家としての進路変更を決める。

そして、前田青邨が教える東京藝術大学を目指す。試験は、絵画の実技、「フクロウ」「カケス」の絵と学科で、両方に受かって面接に臨んだ。面接では前田青邨が担当で、「私は先生の絵にあこがれて、どうしても先生に教えて頂きたい受験しました」と応えた前田は、笑顔で応じたことから合格に自身があったが、最終発表の時に、自分の名前は無かった。

心機一転、自律への道を決意し、院展への挑戦を開始した。十九歳の昭和三十年(1995)初出展の風景画「石神井川」が入選する快挙となる。

高校を卒業、大家族を養う必要から油絵具の工場で働き始めた。昼間働き、夜懸命に絵を描く生活が続いた。昭和三十九年(1964)トクミ夫人と結婚、翌年には、父・黄鶴が亡くなり、母や生後間もない長男、そして、七人兄弟の内、独立した次男を除く大家族を、文字通り一家の大黒柱として苦勞を背負うことになる。

昭和四十四年(1969)北海道の自然風景を描く旅に出発、この時の「北辺」が院展奨励賞に輝いた。それまでの風景や春夏秋冬から荒々しさや寂寥感を表現する内容で、日本画の世界に変革の気風に挑戦した訳である。

昭和五十一年(1976)、「北岬」が日本美術院賞、大観賞を受賞、その後、院展の外務大臣賞、前田青邨賞、そして、六十二歳になった平成十年(1998)、欧州イベリア半島とアフリカ北端を隔てるジブラルタル海峡で観た船を描いた「海峡」で院展最高位の「同人」に推挙される。

画家の目を通した自然美「昭和新山」「北辺旅情」「有珠山胎動」等、厳しい山野の幹や梢が、大地の偉大さと人間を包み込むような優しい眼差しを感じる。

「昔から日本人は、岩や樹木に注連縄を飾り参拝します。大自然に対する畏敬の念を表してきました。同様に、その心を、私は風景を通して描いてきました。単に、形や色にとらわれず、自然を表現した私の心情を汲み取ってほしいのです。」と語っている。

(3) ゲストの紹介

・前橋クラブ31名、新潟RAC7名

新潟RC元会員1名 ご家族9名

(4) 7/26 チャリティーゴルフコンペ結果報告

		グロス	ハンデ	ネット
優勝	松本 英明	93	22.4	70.6
準優勝	武田 博之	88	16.0	72.0
3位	村松 敦	110	36.8	73.2
4位	吉田 和弘	91	17.60	73.4
5位	小田 等	94	19.20	74.8

(5) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(織戸 潔委員長)

チャリティーゴルフ参加者一同

米山奨学会寄付発表(吉田和弘幹事)

チャリティーゴルフ参加者一同

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

チャリティーゴルフ参加者一同

塚田 正幸君

(6) ニコニコボックス紹介 (千田 英継副委員長)

- ・前橋 RC 会員一同 大勢でお邪魔します。よろしくお願ひ致します。
- ・竹石 松次会長 前橋友好クラブの福島英人会長はじめ一行31名のロータリアンご家族を歓迎してニコニコします。
- ・チャリティーゴルフ参加者一同 7月26日(日)海岸清掃で一汗かき、その後、ゴルフで炎天下二汗目をかき、皆ニコニコしました。みなさんからの参加費の一部です。

(7) 幹事報告 (吉田 和弘幹事)

- ・8月13日(木)・14日(金)は事務局のお盆休みになります。(註:昨日の7RC会長・幹事会で決定しました)
- ・9月5日(土)に行われるIMについて、主催の新潟東RCさんより、当クラブへ20名の参加要請が来ております。

(8) 本日の出席率 60.00 %

会員数96名 (出席免除会員 8名)

出席者57名 (出席免除会員1名を含む)

(2週間前メーク後 89.02 %)

8月11日の例会予定

会員スピーチ 樋熊 紀雄 副会長

納涼例会懇親会

恒例の納涼例会がイタリア軒12階の新装「ゴンドリーナ」で7月28日に開催されました。前橋RCからの31人、新潟RCの家族9人、新潟ローターアクトの7人、総勢107人という過去最大の参加者となりました。

例会終了の点鐘を合図に会場が暗転、笛の音が場内の空気を一変するという趣向に参加者の注目するところとなりました。会場の一角に作られた障子越しに優雅に篠笛を奏でる女性の姿がシルエットで浮かび上がり聴衆の目を釘付けに。この日のイベントの一つ、地元関川村在住の篠笛奏者、田村優子さんによる「佐渡おけさ」で始まりました。

次いで前橋RCの福島英人会長による乾杯で新潟・前橋RC合同納涼会懇親の宴が始まりました。篠笛が「ものけ姫」を奏でる頃にはフローズン生ビールの杯が

進み、新潟特産のエダマメに始まり趣向を凝らした料理が参加者の胃袋を満たしていききました。

宴たけなわのところで、すっかりお馴染みの前橋RCコーラス部が登場、大河ドラマの主題歌「花燃ゆ」がダイナミックに歌い上げられ会場の熱気は最高潮に。「砂山」では、濱田道子さんのキーボードに篠笛も加わり、格調ある仕上がりに会員家族も口ずさむ光景が広がりました。中締めはカンパイラーの異名を持つ横山芳郎パストガバナーが立ち、何と万歳三唱。「手に手つないで」を大合唱してお開きとなりました。

おもてなしをする親睦委員会にとって新年度最初の大仕事になりました。皆さまのご協力に感謝です。

親睦委員長 玉 知夫



新潟ロータリークラブホームページアドレス
<http://www.niigatarc.jp/>